

「挑戦・仲間」

府中町立府中中央小学校 対象学年（５年）

体験活動の種類 自然 交流 社会奉仕

体験活動場所・宿泊場所 廿日市市・広島県立もみのき森林公園

【学校紹介】

本校は、府中町のほぼ中央部に位置し、校区を南北に二分するように旧山陽道，山陽新幹線が東西に貫いており，さらに南側を旧国道２号線，山陽本線が併走している。バス交通の便がよく，広島市中央部とのつながりがよいことから日常生活の利便性の高い地域となっているが，児童が日ごろから十分な自然体験ができる環境とはいえない。また，転出入や核家族が多く，身近な人とかわる経験の乏しい児童が少なくない。



本年度は，学校教育目標を「自ら学び，ともに伸びるはちの子の育成」，キーワードを「自立と挑戦」とし，食育や話し合い活動，あいさつボランティア，行事ごとの実行委員会組織による取組などを通して，児童の主體的な態度，よりよい生活への意識の向上をめざしている。

校長名：藤田美佐子

児童数（学級数）：727名（25学級 特別支援学級を含む）

所在地：広島県安芸郡府中町浜田二丁目6-1

電話番号：082-282-8711

URL：<http://www.fucyucyuou-e.hiroshima-c.ed.jp>

【体験活動のねらい】

自然の中で生活することにより，情操を養い，自然を味わい，自然を愛する心を育てる。

自分達で考え，計画・実践する活動を通して，自主的な態度を育てる。

寝食をともにする活動を通して，思いやりの大切さや望ましい集団行動の在り方を学ばせ，児童相互，児童と教師の人的なふれあいを深める。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施 時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6 ~ 7月	事前 ・ 実行委員会を中心とした学年総会 ・ 環境学習 ・ 主題名「生物を大切に」 主題名「一ふみ十年」 ・ 活動準備 班別目標の設定 係スタンプ準備・ 調理の仕方	1 10 1 1 4 1	学級活動 総合的な学習の時間 道徳 道徳 学級活動 家庭科	学校 学校	学年担任 担任 担任 担任 学年担任 担任
7月	宿泊体験活動(3泊4日) ・ ドッチビー大会 ・ ナイトウォーク ・ 巨木伐採・薪割り体験 ・ 飯ごう炊飯 ・ 子ども神楽体験 ・ 源流体験 ・ 家族への手紙 ・ ボランティア活動	24	特別活動(学校行事)	もみのき 森林公園	教職員 施設職員 ゲストティーチャー
9月	事後 ・ 学年総会 ・ 礼状作成 ・ 体験活動のまとめ	1 1 3	学級活動 国語科 総合的な学習の時間	学校	担任
10月	・ 環境に関わる群読計画・練習	9	国語科 総合的な学習の時間	学校	学年・ 学級担任
11月	・ 群読発表会 ・ 成果発表会の計画および資料作成 ・ 主題名「郷土を見直す」	1 10 1	特別活動 総合的な学習の時間 道徳	学校	学年
12月	・ はちのご祭り テーマに基づく活動 のまとめ・成果発表会	3	児童会行事	学校	学年
9 ~ 3月	・ 常時活動(掃除・委員会活動など)		特別活動	学校	各担当

【体験活動の概要】

1日目

ドッチビー大会

当初の予定では、アスレチックを行う予定であったが、前日の雨による足元の危険性を考えて急遽体育館での活動に変更した。クラス対抗で行ったが、大いに盛り上がり、活動のスタートとしてはとてもよかった。始めの仲間意識を持つことができた。



2日目

巨木伐採・薪割り体験・飯ごう炊飯

伐採・薪割・火起こし・野外炊飯という体験活動に流れを持たせることができた。班での協力が必要な活動のため、児童は自然と声をかけあい、協力していた。また、達成感や充実感を共有することができた。

吉和子ども神楽団との交流

同世代の子どもたちが、地域の伝統文化を継承していこうとしている

ことを知り、自分たちの地域の文化を見直す機会となった。また鑑賞後の交流会では、衣装を着たり、太鼓を打ったりする体験をさせてもらった。神楽団の子どもたちへの質問も多く出て、交流を深めることができた。



3日目

登山・源流体験

標高1072mの小室井山へ3グループに分かれ 指導者の引率のもと太田川源流探索を含めた登山を行った。長い道



のりであったが、指導者による山の動植物の解説もあり、源流の湧く様子を見、その水を口にして全員しっかりと活動できた。児童の間で「がんばれ。」と声をかけたり手を引いたりする姿も見られ、関わりが深まる活動であった。



キャンプファイヤー

当初の予定では、1日目に行う予定であった。前日の雨による予定変更で3日目となった。これまでの活動の中で高まってきた仲間意識や協力意識などもあり、盛り上がるものとなった。協力してやりきることで達成感を持つことができた。



4日目

ボランティア活動（施設周り清掃）

最終日にボランティア活動を設定した。これまでお世話になってきたことをみんな

で思い返して活動に取り組んだ。感謝の気持ちを込めて自分たちの使った施設をきれいにしようと熱心に活動することができた。



【体験活動の効果を高める事後学習】

国語科・総合的な学習の時間

環境に関わる群読計画・練習

群読発表会

実行委員形式で、自分たちの力で作り上げるように仕組んだ。

(協調性・自律性・積極性)

総合的な学習の時間・児童会行事

成果発表会の計画・および資料作成

はちのこ祭り

(協調性・自律性・郷土愛・課題を見つけ解決する力・コミュニケーション)

・廿日市市吉和地域と府中町の「木」「水」に着目し、課題設定した。自分たちで設定した6テーマをグループで分担、体験と合わせて調べ学習を行った。

・「はちのこ祭り」において上記の調べ学習で学んだことをグループ毎にまとめ、他学年・来校者に伝えた。

【交流先や施設等との連携】

事前の下見(延べ四回)において、体験施設の担当者と打ち合わせを行ったり、現地視察、危険箇所の確認等を行ったりした。

活動プログラムの作成において、学校、施設の指導者で協議し調整を図った。

活動内容や指導、流れ等について事前確認を行った。

地域の交流相手への連絡では、体験施設の協力を得られた。

体験活動中も、活動内容や計画の確認を常に行った。

【評価の工夫】

活動中は、毎日振り返りを行い、自分の思いや成長、友だちのよさに気づかせるとともに、次の活動への意欲付けとした。

体験活動が夏季休業中であったため、帰宅後、夏休み中の課題として新聞作りをさせた。(総合的な学習の時間で学んでいた吉和と府中町の環境の違いがメインテーマ。)

2学期に学年総会を開き、実行委員を中心に振り返りをさせた。肯定的な評価を返し、以降の取組に生かしていくことを意識させた。

【安全面の配慮】

事故災害発生時には引率教員が適切に対応できるよう、事前に協議した。

活動場所やその周辺の環境、移動時間の把握、危険箇所や携帯電話の使用可能場所等の確認を行うため、引率職員での現地の下見を複数回行った。

体験活動を安全に行うため、事前の指導を大切にしました。また、特に安全面で配慮が必要な体験活動については、教職員の参加体制を強化し、多くの人数で指導に当たった。緊急時の受け入れ医療機関について、事前に確認を行った。

事前に児童の健康調査を実施し、児童の健康状態や緊急時の保護者への連絡先等を取りまとめ、引率者全員が事前に情報を確認し、指導に当たった。

健康観察を毎朝昼夜、さらに必要に応じて行い、児童の健康状態把握に努めた。

緊急用車両を宿泊施設敷地内に常時配置し、緊急時の迅速な対応ができるよう努めた。

熱中症対策として、十分な水分補給と塩飴を準備した。また、児童の水筒のお茶補給にも配慮した。

【体験活動の成果と課題】

成果

3泊4日の集団宿泊活動という学校生活とは違った生活を行うことで、友だちとの関わりが増え、以前より友だちへの理解が深まった。そのことから「だれとでも仲良くできる」「自分と違う意見や考えを受け入れることができる」と回答する児童が増えた。実際に学校生活の中でも班活動、話し合い活動において相手を批判せずいったん受け入れる姿などにも表れている。

児童は、友だちと数多くの感動体験を共有することで、仲間意識や助け合うことの大切さを学ぶことができた。

自然の中に入り、直接肌で感じながら学ぶといった直接体験を通じた学びはこれまでの学校生活の中では、なかなか味わうことが少ない体験であり、児童にとってかけがえのない経験となった。

野外活動にかかる指導を全職員で行ったことで、体験活動の重要性について共通認識をもつことができた。また、教職員相互の関わりも深まった。

保護者はおおむね肯定的な評価であった。(特に協調性・自律性・規範意識・他者への感謝・思いやり・コミュニケーション)

保護者の声

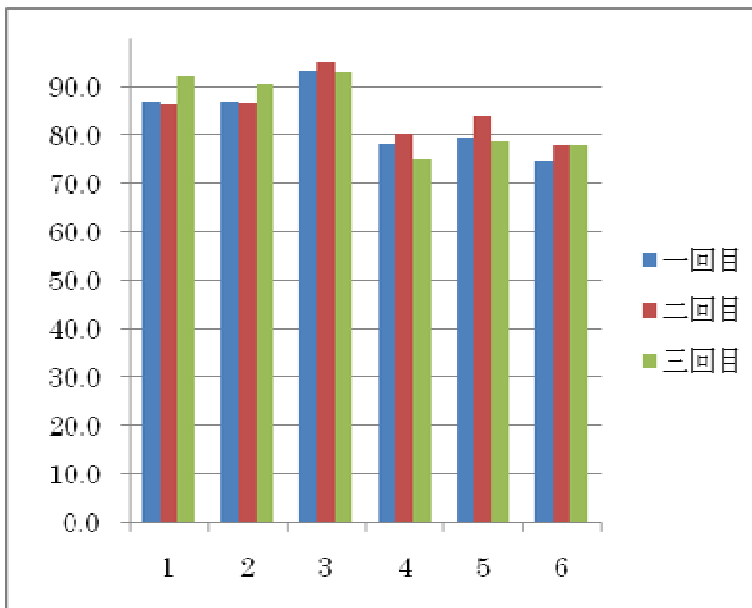
- ・友だちとの関わりが以前より広くなり、相手の立場になって考えることができるようになってきたと思う。
- ・友だちとよく遊ぶようになった。
- ・物事を見通しを持って行動するようになってきた。
- ・自然や地域のことを親にいろいろ質問して知ろうとする姿がみられるようになった。
- ・何事にも積極的になったと思う。
- ・家庭での手伝いをよくしてくれるようになった。
- ・自分でやってみようということが増えた。
- ・集団の中で、がまんすることや相手のことを考える機会が増えた。

課題

普段よくがんばっているようにみられても、自己肯定感が低い児童がいる。活動後も伸びが小さかった。学校生活全体にわたって頑張っているところや良さを児童相互で認め合い、表現していく必要がある。教師も児童の良さを多く見つけ、その都度言葉で伝えていくことを継続していきたい。

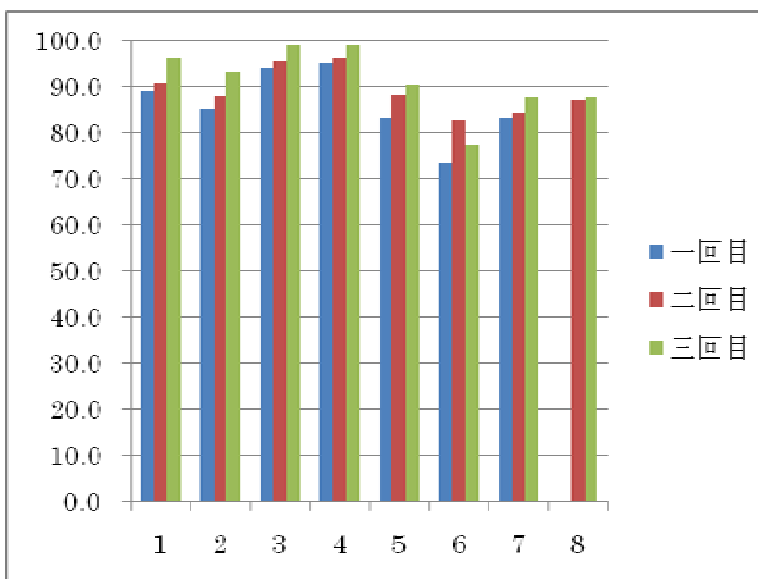
「自分が暮らす地域のことをもっと知りたい」「地域のために何かしたい」という項目では、肯定的評価が低く、体験活動後にも伸ばすことができなかった。地域に目を向けさせる学習活動の工夫や取組が必要である。体験だけでは向上させられなかった部分は今後こういった活動を関連付けて深めていくか見通しを持った計画が必要である。

児童



- 1 - 誰とでも仲良くできる。
- 2 - 自分と違う意見や考えを受け入れることができる。
- 3 - していいこととしてはいけないことの判断ができる。
- 4 - 自分が暮らす地域のことをもっと知りたい
- 5 - 自分が暮らす地域のために何かしたい
- 6 - 自分のいい所が分かる

保護者



- 1 - 誰とでも仲良くできる
- 2 - 自分と違う意見や考えを受け入れることができる
- 3 - 自分に割り当てられた仕事はしっかりやる
- 4 - きまりやルールを守ることができる
- 5 - 相手の立場になって考えることができる
- 6 - 腹が立っても抑えることができる
- 7 - 人の話をきちんと聞くことができる
- 8 - 体験活動を通して子どもが成長したと思う

体験活動で身につけたことを家庭や学校での生活に生かすことができるよう、毎日の指導を充実させていきたい。